

アイ・ティ・イー

温度管理技術で貢献

「医薬品と農水産物は生活に欠かせない。日本の医薬品の技術開発力と高品質な農水産物を輸出するため、温度管理技術・システムを開発し、日本とアジアの顧客をドア・ツー・ドアで結ぶことが目標だ」。この語るのは温度管理システム「アイスバッテリーシステム」を開発、提供するアイ・ティ・イー(I・T・E)のパンカシ・ガルグ代表取締役社長。



ガルグ社長

同社は現代社会の環境問

題を考え、エネルギー資源の保護を目的に発足した。さまざまな分野の応用研究開発、工学技術、ビジネス開発で経験を持つガルグ社長が、台湾の国家機関と共同で2007年7月にI・T・E台湾を設立し、同8月に日本法人を立ち上げた。

独自開発した液体状の蓄冷プレート「アイスバッテリー」が全ての技術の中核を担う。同製品を活用すれば、マイナス25度からプラス8度まで細かく温度設定ができる。冷凍庫に事前に保管して使用する。アイスバッテリーの使用本数によるが、温度は8〜72時間以上、一定温度を保持でき

る。電源のない環境での冷凍、冷蔵環境も実現する。同製品を生かした「アイスバッテリーボックス」、保冷カーゴ車「アイスバッテリーカート」も開発、提供している。製品導入済みおよび予定の主な企業は、日本では日本航空、富士電機、アルフレッサ、ワクチン製造製薬会社、血液検査会社、輸送サービス会社、和菓子会社など20社。製品自体は三菱UFJリースを通じてリース/レンタルも行うっており、購入に比べて低価格での活用も可能としている。

農作業を通じて働く場を提供している。同社は「アイスバッテリーシステム」を提供して、ごきげんファームが農場でとれた有機野菜や果物をすぐに保冷して、取れたての味覚をそのままに近隣の市場や飲食店に出荷している。今後、日本の有機野菜や果物を海外在留邦人向けに出荷していく予定。日本の野菜や果物が手を愛する人々に祖国の香りを届けてジャパンクオリティーを広める一助としていく予定だ。

同社は東日本大震災の被災地の復興に向けた取り組みも進めている。今後も温度管理の技術・システム開発を進め、「東北、日本、アジアの元気に貢献していきたい」(ガルグ社長)とする。

日本航空

ソリューション深化

「医薬品メーカーの認知度は高まっている。まだまだ小さい規模ではあるが『J SOLUTIONS

PHARMA』の2011年度の売上高は前年度比倍増した。12年度も倍増を目指す」と日本航空の貨物郵便本部貨物路線部国際路線室マーケティンググループ医薬品ロジスティクスチームは意気込みを語る。

日航は2010年8月、顧客のニーズに応じたテーラーメイド型のサービスの第一弾として医薬品輸送の「J SOLUTIONS

PHARMA」の提供を開始した。アイ・ティ・イー(ITE)とは共同で保冷ボックスを開発。11年度初めからは「サーマルブランケット」の提供も開始し

た。これは、急激な温度変化を防ぎ、濡損など貨物のダメージリスクも軽減するシートだ。さまざまニーズを用意しながら、顧客のニーズをくみ上げ、ソリューションを提供してきた。

実績が増えていく中で、輸送ルートでは、日航の日本発着のネットワークを活用することに加え、最近ではオフライン地点の三国間輸送の案件も受託。陸送のロードフィーダーサービスも含めてサービスを提供するなど、引き合いが高まっている。

国内外で医薬品メーカーに対する提案、また、ヒアリングを行っている中で、ニーズの変化も的確に把握している。増加傾向なのが、顧客自らが梱包資材などを

用意するケースだ。一般的には航空会社、フォワーダーが用意した温度管理コンテナを利用するケースが多いが、コンテナリース料金などを考慮して、特に欧州では自社対応するメーカーが出てきているという。

「パッシブ」と呼んでいるが、こうした顧客に対しては航空会社、フォワーダーも、ガイドラインののり、当社ならではの高いハードリング品質を提供していく(貨物郵便本部)との方針だ。

全体として医薬品輸送に対して注力しているという意識を共有。意識向上で海外現地スタッフも主体的に動くようになり、組織力が向上した。現場では、顧客のSOPに基づききめ細やかな対応はもとより、例えば、何かトラブルが発生した場合

でも土・日・祝日も含めた夜間でもスタッフが電話対応できる体制を整備した。この4月からは最新鋭B787型機で成田-ポストン線を開設した。ポストンは医薬関連の研究機関やメーカーも多く、今後、需要を取り込んでいく方針だ。



日航が活用している「サーマルブランケット」